

1 学校教育目標

○よく考える子 ◎思いやりのある子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者・地域との協働で子どもを育てる活気のある学校 ○常に目標を明確に示し、児童の頭と心と体のバランスの良い発達を目指す学校 ○児童一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを感じることのできる学校
○児童・生徒像	○地域に根差し、互いの良さや違いを認め合い、助け合える子ども ○基礎的・基本的な学習内容と生活習慣を身につけ、進んで学習する子ども ○常に目標をもって、健康の増進や体力の向上に努める子ども
○教師像	○常に自己研鑽に努め、指導力や授業力の向上に努める教師 ○深い児童理解と教育愛に満ち、児童・保護者・地域に信頼される教師 ○組織的に協働し、教育効果を高める職務行動意識の高い教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【児童について】

- ・基本的な生活習慣の定着が進んできている。遅刻者や欠席者の数は前年比減少。
- ・全学年、自己肯定感が向上してきており、落ち着いた学校生活を送っている。
- ・通常学級における支援を要する児童が増加、学校外からの人的支援が必要である。

【教職員について】

- ・人事異動を経て、学力向上・生活指導の主務となる主幹教諭、主任教諭の交代があり、異動者の経験と能力を校内に般化させ、組織的に対応できるシステムを整えてきて。

【保護者・地域について】

- ・学校の経営計画や課題を理解し、開かれた学校づくり協議会を中心に、PTAOBやPTA役員も積極的に支援体制を組んで参画している。これらの組織は学力定着を支援する取組として成果を上げている。

【前年度の成果と課題】

①基礎・基本の定着

- ・当該学年で習得すべき内容の8割を定着させる目標についてはステップアップテストにより進行管理を行い、達成することができた。ポートフォリオ、SP表に基づく学力調査結果の分析と改善を行った。未達成の児童については放課後の補習、土曜日授業、桜花基礎学習教室等で対応した。
- ・保護者への啓発として家庭学習週間を設定し、新しい家庭学習時間の内容と目安を提示し。

②自己肯定感の向上

- ・読書活動、人権を大切に教育や挨拶運動、「一日一賞賛運動」を進め、心豊かに生きる力をつけることを重視した。自己肯定感調査で効果測定を行った。9割の児童が自己の価値を認めることができた。

③健康な体づくりと体力向上

- ・基本的な生活習慣は向上している反面、流行性疾患・体調不良・土曜授業日の欠席数の増加があったが、全体としては欠席者数の前年比減となった。
- ・持久力の向上が課題となっており、持久走週間、縄跳び週間等一定期間集中的に運動に取り組むことにより、縄跳びについては前年度よりも記録の向上が見られた

④小中連携活動の推進と学力向上

- ・授業研究、研究授業に向けての事前研究など、小中の学びが連続する取組の推進。授業のスタンダードを共有することや言語活動を重視した教科授業研究を行い、小学、中学校それぞれが主体的に関わる研究会を実施することができた

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		26	27	28	29	30

1	学力向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）	○	○	○	○	○
2	心と体の充実・発展と自己肯定感の育成	○	○	○	○	○
3	小中連携の推進と学力定着	○	○	○	○	○

5 平成28年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）	
A 今年度の成果目標		平成28年度区学力調査 目標通過率（学校平均）	
基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、区学力総合調査の目標値の通過率を上げる。		全校平均の通過率を72%とする	
B 前年度の取組み内容			
項目	具体的な方策		
「桜花ステップアップテスト」を活用して、国語・算数の基礎学力を定着させる。	全教員によるスキルアップタイムによる指導。 ステップアップテストの実施と一人一人の児童の見とりと補習等による指導の実施。		
8割の学習内容を児童に対して定着を図る。（国語・算数）	国語は、3年以上TT・少人数指導。 読解力は単元を貫く言語活動を重視による指導。 算数は、3年以上習熟度指導の実施 SP表等データを基に児童の現状把握と対応によりつまづきを解消する		
未定着部分の解消	7・12・2月に学力向上委員会で各学年の進捗状況を把握し、進捗状況の確認と修正。 全教員による放課後補習指導の実施。土曜授業学習ボランティアの活用。 開かれた学校づくり協議会委員の協力による「桜花基礎学習教室」指導の実施。		
そだち指導による個別の対応	3か月10回の指導を目安に国語・算数の指導を個別に実施 エリア校として近隣校への本校を会場とした研修会を実施。近隣校のそだち指導員の資質向上に資する。		
C 前年度の成果と課題			
【基礎・基本の定着】			
<ul style="list-style-type: none"> ・4月調査では目標値通過率75.3%となり、目標であった72%を超えることができた。同一集団の経年比較においても平成24年度からの4年間で国語・算数ともに徐々に上昇している。国語においては「読む能力」「書く能力」について課題が残っている。算数については「数量や図形に関する知識理解」に課題が残った。28年度は、前学年の躓き解消に力を入れる取り組みを前期中までに完了し、後期は、当該学年の躓きに焦点を縛って実施する。 ・単元テストの80点以上の達成率は、国語84%、算数80%であり、ともに前年度より定着が進んでいる。 ・当該学年の基礎的な内容の定着を図る「桜花ステップアップテスト」も1月末では、国語95%、算数94%の達成率である。 			
【家庭学習について】			
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の家庭学習時間の平均値では、年間3回の調査結果のいずれも全学年が達成している。未提出児童は固定化しており、担任の支援で放課後に実施させることや「桜花パレット」を利用して宿題を実施している児童も多い。家庭の支援が十分とは言えないため、開かれた学校づくり協議会委員等と協力して習慣を根付かせる努力を継続する。 			
【これから】			
桜花小で継続的に行ってきた向上策であるため、その間の効果の検証もできている。根気よく継続していくことで基礎学力の定着は確実に積みあがっていく。2年後の28年度に6年間継続した積み上げの検証を行うことが必要である。			
D 今年度の目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準		具体的な方策

「桜花ステップアップテスト」を活用して、国語・算数の基礎学力を定着させる。	80点合格、全児童の9割以上の達成。	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員によるスキルタイム指導の実施。 ○小テストやまとめのテストを実施。 ○結果を個人カードに記録し、家庭へ知らせ、連携する。 ○「桜花基礎学習教室」実施
国語及び算数の単元テストの正答率・通過率を上げる。	8割の内容を8割以上の児童に定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> ○4月学力調査結果をSP表分析。 ○放課後補習学習計画を作成。 ○個人学習カルテの見直しと修正。 ○学年ごとに曜日を決めて、全教員による放課後補習指導。 ○7月・10月の学力向上委員会で各学年の進捗状況を把握し、修正策を立てる。 ○そだち指導とも連携体制をとる。
前学年のつまずきの解消を図り、基礎学力を定着、当該学年の定着度を上げる。	10月校内調査を行い比較 ○国語・算数 全校平均 総合10P向上 2月に校内調査を行い測定 ○国語・算数の正答率80%。 国語・算数の通過率75%。	<ul style="list-style-type: none"> ○SP表等、データの活用により定着率の低い項目や内容を洗い出す。 ○学力向上委員会による組織的な放課後補習計画。 ○学年補習日・図書室補習等を組み合わせ、全教員が協力して補習指導にあたる。 ○より個別の対応が必要な児童へそだち指導を実施。

重点的な取組事項－2	心と体の充実・発展と自己肯定感の育成
-------------------	--------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	
自己肯定感が豊かな児童の育成 心身共に健全で、成長を目指すことのできる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケート調査、総合85%以上。 ○持久力自己記録前年より向上、80%以上 	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
あいさつ習慣の定着を図る。 人権教育の推進と特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○学校外で出会った人に自分から挨拶する80% ○高齢者との交流を完全実施。 ○副籍制度を活用した特別支援学校との交流を2回実施 ○29年度特別支援教室の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○全校児童朝会で「挨拶応援隊」を表彰して、意識を高める ○児童による挨拶応援隊の実施 ○ふれあい給食への高齢者の招待。 ○特別支援学校児童の直接交流（体育、音楽、図工等） ○特別支援教室設置に向けて、施設設備、教育課程の整備を今年度中に完了。
豊かな心を育み言語活動を高める読書活動の推進	低学年 120冊以上 中学年 35冊以上(3500p) 高学年 30冊以上(4500p)	週3回の朝読書時間の設定。 担任や図書ボランティアによる読み語り、全学級2回以上の実施。 読書カードへの記録を行い、達成者の学年末表彰を実施。
年間を通じての体力づくり 基本的な生活リズムの確立と定着	<ul style="list-style-type: none"> ○持久力向上のため、個人目標達成児童80% ○欠席者数前年度比マイナス100人 ○生活リズム調べによる振り返り実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○縄跳びは週間の設定他、区の標準記録の更新を目指す。 ○持久走は、全国版持久走カードを用いて、強化週間の設定。 ○保健便りを通して、保健指導を行う。 ○見直し月間の設定と振り返り調査の実施。結果は担任より各家庭に連絡し、学校と家庭とが協調した指導を行う。

重点的な取組事項－3	小中連携で伸ばす思考力・判断力・表現力
-------------------	---------------------

A 今年度の成果目標	達成基準
学びが連続する環境を構築し、接続を意識した思考力・判断力・	指導案検討や研究授業等による教員交流年

表現力の豊かな児童を育成する		間8回以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
連携授業研究会を通じての指導法の工夫。	年間8回の協議会を設定	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職と主任教諭、主幹教諭による連携会議を実施し、進捗状況を確認し推進する。 ○言語活動を重視した授業展開の手法の研究推進。 ○指導案作成の段階から担当者間で連携をする。
授業・児童・生徒交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○北中英語科と本校外国語活動の交流を推進 ○北中生徒会と本校児童の交流によるクリーン作戦の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○花畑北中学校英語科教員によるゲストティーチング。年間2回実施 ○本校児童が中学校生徒会主催のクリーン作戦に20名参加
家庭学習に関するスタンダードの作成	○家庭学習スタンダードの作成。	○連携授業研究会を通じて、小学校、中学校それぞれの必要とされる家庭学習について協議し、検討する。